



大久保小だより



平成30年1月9日第11号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関2-1

048(854)7636

男子156名女子123名計279名

学校教育目標 **カいっぱい かしくく やさしく たくましく**
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

～ 謹賀新年 本年もよろしく申し上げます。 ～

校長 相川 光彦

新年おめでとうございます。皆様、健やかに新年をお迎えのことと思います。昨年中は保護者の皆様をはじめ、地域の皆様からお力添えを賜り、まことにありがとうございました。また、本校の教育活動の推進にあたり、ご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。本年も、教職員力を合わせ大久保小学校の教育に邁進して参りますので、昨年以上のご厚情をよろしくお願い致します。

新年を迎え、今年目標や抱負をそれぞれに立てたことと思います。みなさんは、どんな抱負を立てましたか？2学期の終業式では、新年の抱負を多くの子どもたちは、忘れていました。1年間、忘れずに努力したいですね。

今年は、荒川の土手で大久保浄水場を見ながら、真ん丸なオレンジ色の初日の出を見ました。昇ってくる太陽に向かい「今年も、頑張るぞ！」と心の中で叫びました。

今年の干支11番目の「戌」には、もともと「滅(ほろぶ)」の意味があります。戌年の前の酉年は、成長してきた草木が実を結ぶという意味があります。1つの結果が出たとも言えます。また、戌年の後の亥年は、滅びた後に新たな種子ができるという意味です。新しい生命の始まりを予感させる年とも言えます。つまり、戌年の「ほろび」は、実を結んだ草木がいったん枯れ、その後で新しい芽吹きへと生命が繋がっていく、そんな大切なバトンタッチの意味ももっているということになります。

さて、2020年は、学校教育の基本である学習指導要領が改訂になります。要点は、英語や主体的で深い学び(アクティブラーニング)です。今までと大差ないと感じている方も多いかと思いますが、しかし、大きな変革なのです。この改定に合わせて大学入試が変わるのです。1979年の共通1次試験制度以来41年ぶりのことです。文部科学省の大きな狙いは、AIやロボット化の進む今、自分の頭で考え、言葉にして発信できるグローバルな人材を育てていくことなのです。
～グローバルな人材に求められる力～

- 知識を現実の社会や生活と結びつけて、創造的な学習をする力。自発的、かつ批判的な思考をしながら、クリエイティブに物事を推し進めていく力
- 自分の考えを積極的に主張したり、他の子と議論したり、自分とは立場や考え方が違う人と議論したり、コミュニケーションをとる力

つまり、もっとも重要なのは、日本語で正確に文章を読み、他人の話を正しく把握し、自分の考えを正確かつ説得力をもつ形で書き、話す力だと言えます。

2020年は、子年から始まります。大久保小学校も、新しい十二支の始まりに向けて、知識の習得ではなく、生きて働く知恵やコミュニケーション能力を育ててまいります。

3学期は、まとめの学期です。6年生は、小学校生活最後の学期となります。下級生に素晴らしいバトンを渡してください。平成30年が、さらによい1年と思えるよう私たち教職員も保護者と力を合わせて、「やればできる」を合言葉に子どもたちのよさを引き出し、「誉めて伸ばす教育」を推進して参ります。